

弥勒金堂の発掘調査

都城発掘調査部 平城地区考古第三研究室 研究員

田中 龍一

はじめに

2023 年3月、再開発が進みつつある近鉄大和西大寺駅の北西で、西大寺^{みろくこんどう}弥勒金堂の発掘調査をおこなった。創建期西大寺の中核である金堂院は、平安時代のうちに荒廃し、その遺跡は今も市街地の地下に埋もれているが、発掘調査によって徐々にその姿があきらかになりつつある。

弥勒金堂は薬師金堂の北に位置し、文献史料や絵図、周辺の調査成果から、調査地は弥勒金堂の東北隅部分にあたると考えられた。しかし、弥勒金堂推定地の調査は今回が初めてであり、遺構の有無や遺存状況はわかっていなかった。

一か月にわたる発掘調査の結果、弥勒金堂の建物基壇をはじめ、礎石^{そせき}抜取穴^{ぬきとりあな}、壺地^{つぼじ}業^{ぎょう}といった遺構を発見し、弥勒金堂造営時における大規模工事の実態があきらかとなった。

1. 文献からみた弥勒金堂

1-1. 『西大寺資財流記帳』の記述にみる弥勒金堂の規模

東西約32m(長十丈六尺)、南北約20m(広六丈八尺)、二重屋根。

➡規模や外観のイメージは、興福寺中金堂や薬師寺金堂などが参考になる。

1-2. 弥勒金堂の造営と衰退

天平神護元(765)年 西大寺の造営開始

神護景雲3(769)年 弥勒金堂が完成?

嘉承元(1106)年 弥勒金堂が大破。仏像が食堂に移された。

元禄 11(1698)年 「西大寺現存堂舎絵図」が描かれる。「弥勒金堂跡」の文字と礎石らしき描写が認められる(この絵図の信ぴょう性については諸説あり)。

➡平安時代のうちに弥勒金堂は荒廃してしまい、その後再建されなかったと考えられる。

2. 発掘された弥勒金堂

2-1. 基壇土・弥勒金堂造営前の整地土

現地表から30cm ほど掘り下げたところで基壇土を検出した。青灰色を呈する粘質土で、厚さは20~60cm 程度残っていた。

基壇土の下層には、暗褐色の粘質土を確認した。奈良時代の土器や瓦を含んでおり、弥勒金堂造営前の整地土である。

2-2. 礎石抜取穴

基壇の上面で、計6基の巨大な土坑を検出した。直径は3m前後。土坑の規模や、規則的な配置から、弥勒金堂の礎石を抜き取った穴だと考えられる。調査当初はこの土坑が、後述する壺地業ではないかと考えたが、中世～近世の遺物が出土したことで、弥勒金堂廃絶以降の遺構であることが判明した。

2-3. 壺地業

断ち割り調査を進め、部分的に基壇を掘り下げたところ、礎石抜取穴の真下で、基壇構築の前段階に掘られた穴を6基検出した。この穴は、基壇や礎石抜取穴を検出した面では確認できなかった。隅丸方形を呈し、一辺約3m、深さは最大 1.4m以上もある大規模なもので、大ぶりの石や瓦を用いながら埋められた状況を確認した。以上の特徴から、これらの穴は、礎石を据える箇所の地盤改良を目的とした壺地業であると考えられる。

3. 弥勒金堂の考古学的検討

3-1. 弥勒金堂の柱位置

弥勒金堂の規模や上部構造を考えるうえで、柱位置は重要な要素である。今回の発掘調査では、柱を立てるための礎石は抜き取られていたものの、壺地業によっておおよその位置を推定することが可能である。

今回発見した壺地業の位置は、従来の復元案と比べ、南北方向にズレがみられるものの、東西方向のズレはほとんどないことがわかった（より詳細な検討は、現在実施中）。

3-2. 弥勒金堂基壇の構築過程

土層断面の観察から、弥勒金堂基壇の構築過程が以下のように復元できた。

- ①西大寺造営前に整地をおこなう
- ②礎石を据える予定の場所に穴を掘り、石や瓦を入れながら埋め戻す（壺地業）
- ③基壇土を積みながら、礎石を据える
- ➡西大寺薬師金堂や金堂院回廊では、基壇構築後に穴を掘って、壺地業と礎石据え付けを一連の作業でおこなっている。

一方で、弥勒金堂の場合は、基壇構築前に穴を掘って壺地業をおこなっており、壺地業と礎石据え付けが別々の作業になっている点で、西大寺の他の堂宇とは異なる工法といえる。

おわりに

弥勒金堂跡はこれまで未調査であり、遺構の遺存状況はわかっていなかった。今回の調査は、限られた面積だったものの、弥勒金堂の遺構が良好な状態で地下に残っていることが確認できた。また、壺地業の配置がわかったことで、弥勒金堂の柱位置を改めて検討することが可能になった。そして、壺地業の施工後に基壇を構築するという特徴的な工法を採用したこともあきらかとなった。

今回の調査成果は、西大寺の造営工事や古代の土木技術を考えるうえで、重要な成果といえる。

【主要参考文献】

青木敬 2022「国分寺造営の土木技術と堂塔—相模・武蔵国分寺の堂塔造営順序の復元をめぐって—」『國學院雑誌』國學院大學、第123巻 第4号

諫早直人・小田裕樹・鈴木智大ほか 2014「西大寺旧境内の調査—第505・第521次」『奈良文化財研究所紀要 2014』

林正憲 2007「西大寺薬師金堂の調査—第409次」『奈良文化財研究所紀要 2007』

林正憲 2008「西大寺薬師金堂の調査—第422次」『奈良文化財研究所紀要 2008』

奈文研紀要
2007



奈文研紀要
2008



奈文研紀要
2014



過去の紀要は全国遺跡報告総覧 (<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja>) でダウンロード可能です。

【挿図出典】

いずれも奈文研作成・撮影

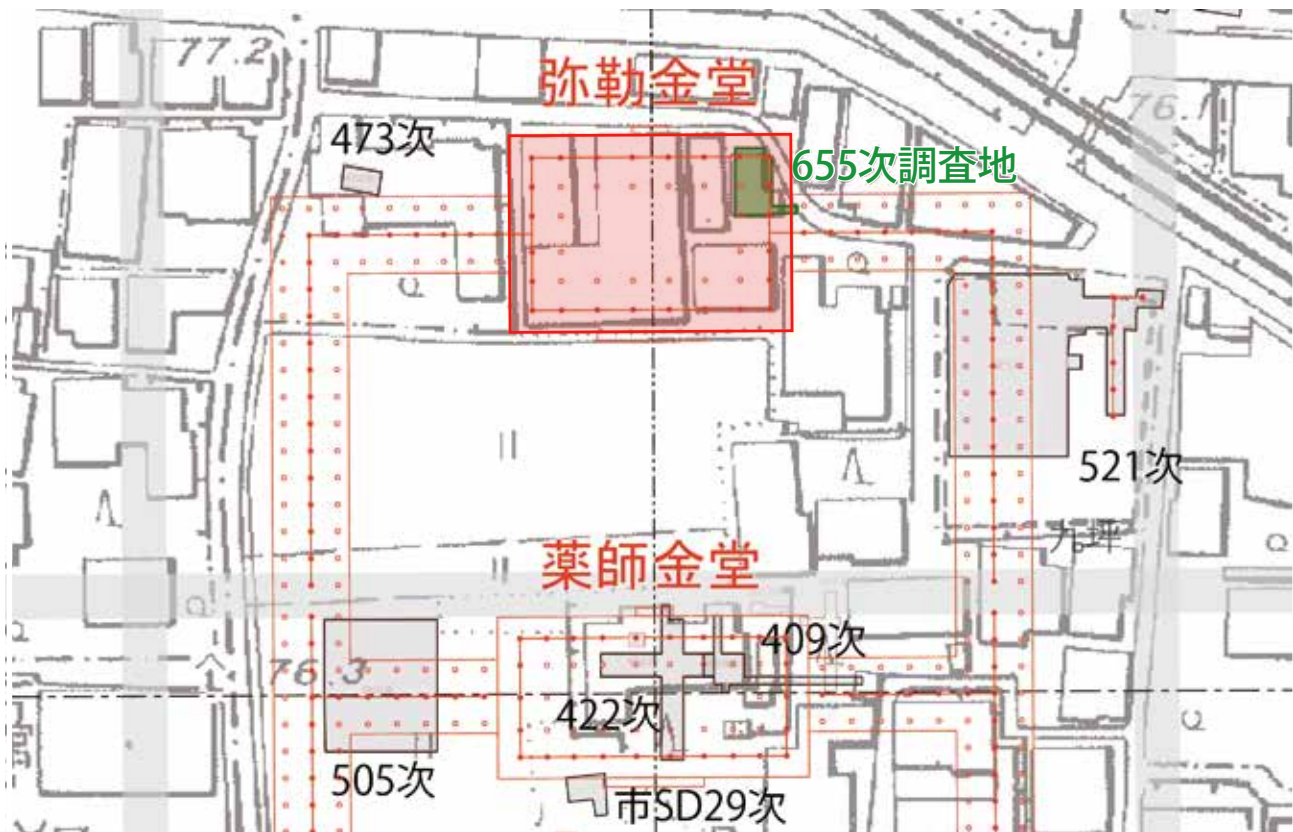


図1. 655 次調査位置図



図2. 西大寺金堂院復元 CG

【公式】なぶんけんチャンネル
 平城京のまちなみ紹介～奈良時代の都のしくみ～
 (https://youtu.be/rpTJSJ58WXE) より





写真1. 655次調査 調査区全景（北から）



写真2. 礎石抜取穴 D・壺地業 D（北東から）

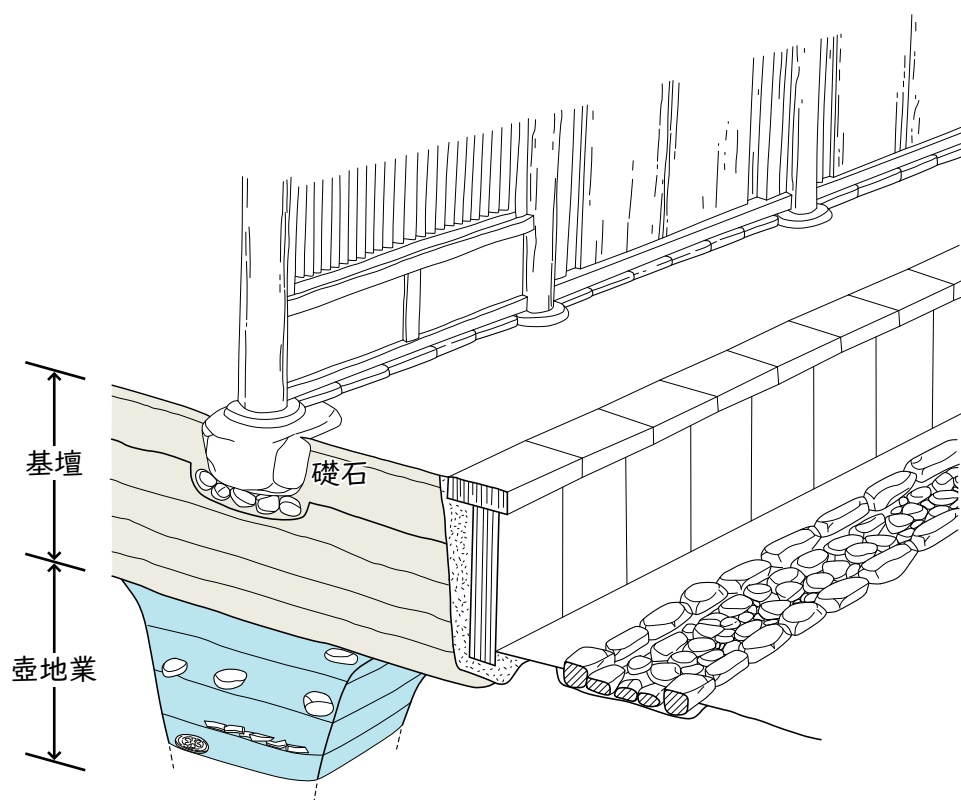


図3. 弥勒金堂 基壇模式図